

公共図書館 展示

ブックケア

未来へつなげる保存の技術

“本は劣化する” — では、本を長持ちさせるためにはどうすればよいのでしょうか？

劣化の原因を知り予防するとともに、適切な手当てをすることで、劣化のスピードを緩やかにすることができます。

そこでこの展示では、主な劣化の原因と日頃のケア、修理の基本や材料・道具などの保存の技術についてご紹介しました。



<劣化の原因を知り予防する（主な事例）>

◆日常の取扱いによる劣化の原因

①取り出し方《無理に引き出す》

背表紙に指をひっかけて取り出そうとすると、背表紙が壊れます。背表紙は引き出すためのものではありません。

②もどし方《無理に押し込む》

棚に戻すとき無理に押し込むと、ゆがみ、折れ、シワ、やぶれの原因になります。

③置き方《不安定に置く》

棚や机上に、不安定に置いたり積んだりすると、本の形がゆがむ原因になります。

④運び方《手元から落とす》

強固に作られた本は、衝撃を与えると壊れます。本を運ぶ時は一度にたくさん持たず、落とさないように注意します。

⑤めくり方《乱暴にページをめくる》

紙は破れやすいため優しく取り扱います。

⑥コピーの取り方《ノドを押しつける》

コピー機にノドを押しつけて複写すると、背が割れ、ページが取れるなどして壊れます。過度な力は構造を破壊します。

⑦雨&水《水に濡らす》

水分は、紙の天敵です。適切な処置をしても完全には元に戻りません。

⑧論外です《食べかす、汚れた手、書き込み》

いずれも本を傷めます。

◆間違った修理による劣化の原因

“強力な材料は構造のバランスを壊す”

⑨セロハンテープの使用

一度貼るとはがしにくく、時間の経過により、劣化し変色したりパリパリになりはがれ粘着層が残ります。本の修理には、セロハンテープを使用しません。

⑩強力すぎる材料の使用

強力な接着剤は、ぬった部分は丈夫でも、強度の差ができ、いずれ他の部分まで壊れます。やり直しができないため、再修理が困難になります。

◆紫外線の影響による劣化

⑪紫外線（日光・蛍光灯）

日光や一般的な蛍光灯には、紫外線が含まれています。リグニンを特に多く含むパルプを使用している紙は、光にさらされると紫外線などの影響を受け、黄色く変色してしまいます。

事前に新聞紙を3か所（直射日光が当たる所、室内蛍光灯の光が当たる所、室内消灯を心掛けた所）に置き、紫外線による影響について実験しました。（実験で使用した新聞紙は展示しました。）

一番変色したのは、直射日光に当たった新聞紙、次に蛍光灯に当たった新聞紙でした。

以上の点から、本を置くときは、直射日光があたる場所をなるべくさげ、室内はできるだけこまめな消灯をこころがけるとよいです。

◆その他の劣化事例

図書館等でみられる事例を、現物の展示でご紹介しました。

⑫カビの発生

⑬酸性紙の劣化

⑭レッドロッド（革の劣化）

<本のケア>（日頃できるケアを紹介）

◆正しい取り扱い方

①正しい本の取り出し方

<ポイント> 背に指をひっかけない!

- i 両サイドの本の背を軽く押す。
- ii 目的の本の真ん中を持ち、取り出す。

②ドライクリーニング

<ポイント> 水分を使わずに、刷毛やクロスで本をきれいにします。

- i 片手でしっかり持つ。
- ii 小口を刷毛ではらう。天→前→地の順。
- iii 見返しノドを刷毛ではらう。
- iv 全体を布で拭く（化学雑巾は不可）。

◆効果的な手当て

③ページの折れ・シワの手当て

<ポイント> ごく少量の水気をあたえてから重しをのせて乾燥させることで、ページを平らに戻します。

ただし、弱った紙や写真集などの塗工紙にはできません。

- i 折れ・シワを取りたいページの下に白紙などの吸水紙を挟む。
- ii 水で濡らして固く絞った布巾で水気をあたえ、折れやシワを伸ばす。
- iii 新しい白紙を上下面に挟み、本を締め板で挟み重しをのせて乾燥させる。

④水濡れ（雨&水）の手当て

<ポイント> 水濡れの手当てはスピード勝負。白紙などの吸水紙を挟み水分を取ることで、元の状態に近づけます。

- i 1ページごとに白紙を挟み水気を取る。
- ii 水を吸ったら白紙を取り換える。

- iii さわってもほとんど湿り気を感じなくなったら、本を締め板で挟み、重しをのせて乾燥させる。

<保存の技術>

◆修理の基本と材料

①修理の基本

- ・何度でもやり直せること
- ・安全な材料を使う
- ・柔らかく軽く仕上げる

②基本的な材料

和紙（楮）（極薄・薄・中厚・厚4種類）、でんぷん糊、混合糊（でんぷん糊2：白ボンド1）、白ボンド、麻糸

◆本の修理の道具

筆（こしのある平筆）、カッターナイフ、定規（金型30cm）、目打ち、製本針、締め板、重し（5kg、漬物石等）、樫矢（目打叩き棒）

<体験コーナー>

ご来場の方に、本の手当てに関する体験をしていただきました。

- ・本の取り出し方
- ・シワのばしの手当て
- ・ドライクリーニング
- ・水濡れ本の手当て
- ・平綴じ（三つ目綴じ、四つ目綴じ）



今回の展示により、本の修理や保存について多くの方が興味をお持ちであることが分かりました。今後も機会を見つけて周知していきたいと思っております。